

総合教育会議（第2回）会議録

1 開会年月日	令和2年11月20日（金） 午後5時4分
2 場 所	笠岡市役所 市長室
3 出席委員等の氏名	笠岡市：市長 小林嘉文 教育委員会：教育長 岡田達也 教育委員 石井 啓弐，藤谷 幸弘，山下 敬広，東山 琴子
4 欠席委員等の氏名	なし
5 会議に出席した者の職・氏名	こども部長 中嶋 徹，こども育成課課長補佐 仁井名 敏文 教育部長 井上 洋一，教育総務課長 虫明 隆
6 議事案件及び会議の概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 小林市長 岡田教育長</p> <p>3 議事</p> <p>(1) (仮称) 富岡認定こども園について まず、こども部から(仮称) 富岡認定こども園移行の概要について説明。 「笠岡市就学前教育・保育施設再編整備計画」において「富岡幼稚園は、2022年度（平成34年度）を目途に当面は3歳児以上の幼保連携型への移行を検討する。」とされており、これに基づき再編整備を行う。</p> <p>①令和4年4月に現施設において、幼保連携型認定こども園として開園予定 ・対象年齢 3歳児～5歳児 ・定員については、現在の富岡幼稚園の入園児童数38名（3歳：11名，4歳：13名，5歳：14名）をもとに，1号認定40名，2号認定30名の計70名を想定</p> <p>②令和6年4月に旧学校給食センター跡地へ移転建替予定 ・対象年齢 0歳児～5歳児 ・新たに設ける3歳未満児の3号認定の定員については，青空認定こども園と同程度の20名とし，定員を70名から90名（1号認定40名，2号認定30名，3号認定20名）に変更する予定</p> <p>※本日の協議結果をもって，今後市議会・委員会への報告，令和3年度予算への計上など，順次進めて参りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校の大きい敷地の中の一角ということになるので，完成後は，小中一貫は別途進んでいるが，保・幼・小の連携ということで，同一敷地内ということを生かして，そういった連携を公立園として，やっていきたい。細かいレイアウトについては，これから設計を行うことになるが，小学校の登校の安全と，送り迎えの方々の駐車位置等を検討しながら，レイアウトを決めていきたい。 ・富岡幼稚園の跡地利用については，今の郷土館が狭すぎて，近代史・現代史の資料を掲示することができないため，郷土館の移転候補地として挙がっている。 ・認定こども園は，旧給食センター跡地の中に建物の配置をして，園庭や倉庫のスペースも確保する。基本的には，園庭スペースを中でとりながら，広く使いたいときには小学校を借りることも，同じ敷地内であるため十分可能であると考え。 ・青空認定こども園については，徐々に人数は増えて来ている。通っているエリアも神島だけでなく，茂平，大島，美の浜，その他いろいろなエリアから来ている方もおり，富岡は立地条件で言うと非常に良いところである。0歳から2歳は私立との競合の問題もあるが，0歳から入った施設で5歳まで通して行かせることがあるので，ここを確保しないと将来的な人数の確保は厳しくなってくる。その辺は説明をさせていただきながら，公立は公立として，やはり継続して行かなければならないので，そこは理解をいただきながら，進めて行くようになる。


- ・幼児教育・保育の無償化が続き、こども園で幼稚園の教育が受けられるとなれば、ますます幼稚園人口が減ってしまうのではないかと。でも、中にはどうしても幼稚園に短い時間で通わせたい、という人もいたとしたら、幼稚園というものをきちんと備え付けたこども園が必要になってくるのではないかとと思う。
- ・この富岡のこども園に関して言えば、同じ敷地内に小学校があるというのが最大の強みである。例えば、ALTの先生が認定こども園まで来て教えてくれる、あるいは学芸会、運動会、入学式、そうしたものを含めて連携で行っていき、6年生の生徒が3歳児の手をつないで入園式をすとか、そういったことも想定して入れ込んでいくことは必要。9年後、6年生の時にうちの子はこんな感じになるんだ、3歳からであれば9年間、0歳からであれば12年間同じところを通う、学童までここで世話になると保護者がそういうイメージにつながれば、かなり強みになる。
- ・教育委員からは、中央小学校の敷地の中に認定こども園ができることは、教育というものを長い目で見たときに方向性としてはすごく良い形になっていくのではないかと、メリットが大きいと感じるとの声。一方で、笠岡市の最終の目標として、ここ富岡のこども園は最後まで残る場所だと思いが、その辺りも踏まえて、笠岡市内で何個公立のこども園があって、例えば私立の定員との兼ね合いがどういう風になっていて、全体の人口動態から見てその年代がどういう風に推移して、その受け皿として成り立っていきけるのか、というようなところまで把握しておく必要も将来的に出て来るのではないかと意見あり。
- ・再編整備計画を作った時点では、幼児教育・保育の無償化の状況は加味できていない。それが、昨年始まってみて、現在の状況を考えると検討する余地は当然ある。その場合、当然増えるという話でなく、より集約をしてということになると思う。ここの位置関係とか、諸々の状況を考えると、もしそういうことになったときには、受け皿としての役割というのは、非常に大きいと思うので、それをどの程度見越してやるのかは、課題である。
- ・富岡認定こども園で、小学生と実際に体験の中で交流ができるというのは、他にない部分なので、それは明らかに他の園と差別化できる部分だと思う。他の場所でもそういうことができる環境があった方がよいのではないかと。
- ・小中一貫教育のカリキュラムの運用を来年から2年間施行し、本格実施が3年後から始まる。この2年間に今以上に近くの学区内の、民間も含めた幼稚園・保育所との交流をより進めていくこととしている。


4 閉会年月日




令和2年11月20日(金) 午後5時58分


上記会議のてんまつを記録し、関係図書を添付して、その相違のないことを証するため、署名押印します。


令和2年12月25日

笠岡市長 小林 嘉文 

教育長 岡田 達也 

教育委員 石井 啓弋   

教育委員 藤谷 幸弘 

教育委員 山下 敬広 

教育委員 東山 琴子 